

# 三重県新エネルギー研究会



## 活動紹介

### ■活動場所

日本国内

### ■活動日、活動頻度等

通年

### ■活動内容など

資源エネルギーとして、再生エネルギー、火力発電、原子力発電などあるが、日本のエネルギーは火力発電に約8割頼っている。そこで使われる石炭は132年、石油に限っては50年で底をつくと言われている。この現状から原子力発電を使用するため各地域で議論されている。その議論されている問題とは放射性廃棄物が環境破壊につながるのではないかとわれ、各地域で議論されている。これは見過ごすことが出来ない課題である。放射性廃棄物について、教育者また教育者をめざす者がこのことを理解したうえで、未来を担う子どもたちに正しい知識を持ってもらうための研究会である。研究活動を行うにあたり、施設見学（原子力発電所や科学館など）を行い、地域よっての災害対策やこれらの運用について学習し、研究会メンバーで勉強会を開き、どのように切り口で伝えていくかを検討。絵本制作や動画制作、ベントナイト体験などを発表の場があれば披露し、学校でも総合学習の時間に環境問題として、地域の方々に放射性廃棄物、地層処分方法など紹介している。

## 代表者の思い

三重県は工場が多い県と言われるほど、製造業が盛んであり、各市に職業高校が多く存在している。電気について学習する機会が多く、電力施設やプラント工場など見学しており、その際、原子力について理解を深めるために始めた会である。日本では、必要不可欠な原子力燃料に対して、放射性廃棄物や地層処分方法を各地域に理解していただきながら設置することが大きな課題である。

原子力発電については賛否両論で、その良し悪しについてではなく、生徒たちは純粋に技術や環境の観点から、原発事故や発電後の放射性廃棄物、その地層処分方法の課題について考えるきっかけになればと取り組んでいる。



〈施設見学〉



〈授業実践〉